

Revised COMET English Communication I

とその活用方法

池野 修

1. 改訂版 COMET I の特徴

COMET English Communication I (『コメント I』)改訂版は、初版の基本的理念を受け継ぎ、それを発展させた教科書になっています。その主な特徴は、(i)「少ないものを豊かに」という発想に基づいた、分量を抑えつつ汎用性の高い英語表現を多く含んだ教科書本文、(ii)普通科だけではなく工業科、商業科、農業科などの生徒も「自己関連性」(=自分に関係のあるものであるという感覚)を感じられるような題材内容、(iii)見開きの左側ページに英文、右側ページに活動群という、直感的に捉えやすく授業を進めやすいレイアウトなどです。

以下、英語授業での指導段階を「入力・理解(インプット)」、「習熟・定着」、「活用・表現(アウトプット)」に分け、それぞれの段階で『コメント I』をどう活用すれば良いのかを考えてみましょう。

2. 改訂版 COMET I の活用

「入力・理解(インプット)」の段階では、あらためて言うまでもありませんが、インプット素材の英語の質、そして題材内容が重要となります。『コメント I』改訂版には、例えば、L3: What Should I Do?(友人関係に悩む高校生リョウタからの相談)、L6: Flying Wheelchairs(工業高校の生徒が取り組む「空飛ぶ車いす」プロジェクト)など魅力的な題材が多く含まれています。注意を引く写真や映像、本文を読めば答えがわかるクイズなどを準備することで、本文への興味を喚起し、その興味を本文内容を表現している英語を理解しようとする意欲につながりたいところです。

英文の理解確認の段階では、教科書左側ページの New Words, Points to Check, Comprehension も役立ちます。(良い意味で、ノートやワークシートを減らす手段として活用することも可能です。)原則として、英語についての説明(文法解説、和訳)は抑え目にし、読後の活動にも十分な時間を確保することが重要です。また、これらの「理解」系の活動を

行う場合でも、ペア/グループ形態での活動(e.g. ペアによる単語チェック、協同学習による教えあい)にすることも考えてみるとよいでしょう。

「入力・理解」系の活動をこなした後は、本文を活用して「習熟・定着」系の活動を行うことで、英語スキルのしっかりとした土台を作ります。例えば、重ね読み(Overlapping)、Read and Look Up, Listen and Repeat など、形を変えながら何度も音読をすること、シャドーイング、イラストやキーワードを手がかりとした簡単なりテリングを行うことも有効と考えられます。付属教授資料の『英語で授業 展開例』には、このような活動のアイデアも提示されています。『コメント I』改訂版の本文は、分量を絞り、文構造も比較的単純なものにしているため、まとまりのある英文を対象にした「習熟・定着」系の活動を行うには特に適しています。なお、厳密な意味での「言語活動」とは言えないかも知れませんが、これらの活動を充実させることは、生徒が英語を使って活動する時間を増やすことにもつながります。

「活用・表現(アウトプット)」系の活動も重要です。右側ページの一番下にある What Do You Think? 等はその目的で作られた簡単な表現活動です。より本格的な表現活動として、例えば、L3では、友人関係の悩みを相談しているリョウタへの助言を英語で書くといった活動が適切でしょう。(付属教授資料の『活動集』では、各レッスンの本文内容に対応した「活用・表現」の活動を提案しています。)本格的な表現活動は確かに時間を要しますが、そのような活動を行うことによって、単語・文法を確認し英文の意味をとって終わる授業、「正解の答え合わせ」のような授業ではなく、英語を使って考えや思いを表現し伝え合う活動のある授業となるでしょう。

(愛媛大学教授)

Revised COMET English
Communication I 代表著者